巻　頭　言

JFE スチール　専務執行役員
薄板セクター長

岩本　宣彦

缶用鋼板は，飲料缶・食缶・18 リットル缶・ペール缶などに広く使用されている耐食性，加工性および接合性に優れた板厚 0.50 mm 以下の薄鋼板です。約 200 年前に缶が発明されて以来，食品を保持する機能において，長年にわたり信頼を獲得してきました。現在，缶に対して，さらなる訴求力の向上，安定した品質，環境リスクの低減が求められており，缶用鋼板が担う役割も高まっています。訴求力を上げるため，張り出し加工あるいは缶胴の一部が縮径加工された多様な形状をした缶が商品化されています。そのような加工を可能にするため，延性および清浄性の高い鋼板が要求されています。

品質の安定はお客様に信頼いただくための最も重要な要素であり，JFE スチールでは缶用鋼板の内質および表面品質の評価とマーキングおよびリジェクトを可能とする検査装置の導入を進めています。環境への取り組みに関して，商品面では熱可塑性樹脂フィルムをラミネートした鋼板の適用拡大を目指して多様な商品の開発を行っています。その利点は，塗装を省略して有機溶剤の大気への放散をなくすことなどです。また，ぶりきの製造においては，スラジの発生が少なく再資源化が容易な MSA（メタンスルホン酸めっき浴）浴への転換を行っています。

JFE スチールにおける缶用鋼板のビジネスは，ぶりき・TFS（ティンフリースチール）・ラミネート鋼板などのオンリーワン・ナンバーワン商品の販売だけではなく，ぶりき用原板（tin mill black plate）の販売も大きなウエイトを占めています。アジアには魚類，果物の産地およびこれらの加工基地が多く，これに隣接した製缶会社に向けて，現地の合弁ぶりき会社が，JFE スチールの高品質な原板を使ってぶりき・TFS を製造して提供しています。原板も含めた JFE スチールの缶用鋼板の生産量は年間 100 万トンを超えています。

本特集号では，JFE スチールの優れた商品および技術について紹介しています。今後も，お客様のご要望に応えられるよう技術革新を進めてまいりますので，ご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。